

百姓耕作仕方 扣

一耕作仕方大方書出置、依而、知兼節、見此書可致耕作、併此外可然仕方茂有者可致宜、此書者急節為見知、先大方此本ニ書扣置也

文化十一年甲戌十二月

此一書者、当所之九分一と云所ニ住し、喜兵衛と云老人、森田一松江伝へし耕作口授なり、同人も隠居し、右に拘らざるゆへ、梅子ニ伝へ譲りしなり

七十翁

梅園記之

惣目録

稲	大豆	柿大豆	小豆
大角豆	芋	茄	ごま
ひ(神)	粟	大根	蕎麦
菜	牛房	人参	ねき
山芋	あさ	もろこし	冬菜
大麦	小麦		

他見無用

稲之事

一田植日は、はんげ四五日前、同後十日頃迄は吉、何分はんげ前後、くつわ虫の鳴時分を田植の真と云、若又、手廻り兼、又ハ水少キ時ハ、能時分に植兼居候事有之、其節ハ土用入口五日目位植候而も吉、可成義成ハはんげ前後へ可植、もみ時候日と三十三日目を苗日と云

(中略)

柿大豆之事

一かきまめハ、まく節もこいもまき様も、右と同断成とも、五六寸位間ニひねるへし

小豆之事

一小豆蒔節ハ四月中、蒔様ハ麦作を切、春畝ニ付三合位蒔、こいハ入へからず、ほき過てハ悪し、其跡へ土をけかけおくへし、其外大豆と同断

大角豆之事

一大角豆種取、蒔節ハ四月中、まきやうは作をきり、春畝ニ付式合五勺と三合位迄之内ニまくへし、何分天氣能日ニまくへし、雲り日ニまき候得ハ、あふらむしつき候而あしく、一鉢蒔物は天氣快晴ニまくへし

(後略)